

令和2年 第5回 飯舘村議会定例会



令和2年6月議会定例会は、6月9日から16日までの日程で開かれました。一般質問は11、12日に行われ、村議員が村政の重要な課題等について村側の考えを質しました。議会審議は16日に行われ、提出された議案は追加議案を含めて全て原案どおり可決されました。

今議会で可決 された議案など

(紙面の都合上、一部省略しています)

令和2年度一般会計補正予算

令和2年度国民健康保険
特別会計補正予算

令和2年度介護保険
特別会計補正予算

いいたて美しい村づくり推進
条例

ふかや風の子広場設置条例

特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例

飯舘村税条例の一部を改正する条例

国民健康保険条例の一部を改正する条例

国民健康保険税条例の一部を改正する条例

東日本大震災に伴う国民健康保険税の減免に関する条例の一部を改正する条例

村介護福祉条例の一部を改正する条例

東日本大震災による被災者が属する世帯の第1号被保険者に対する介護保険料の減免に関する条例の一部を改正する条例

社会教育委員に関する条例の一部を改正する条例

社会体育施設の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例

使用料条例の一部を改正する条例

相馬地方広域市町村圏組合の共同処理する事務の変更に伴う財産処分について

農業水利施設等保全再生事業ため池放射性物質対策工事請負契約について

災害関連農村生活環境施設復旧事業・福島再生加速化交付金事業 農業集落排水管路工事(草野第1地区・草野1期②) 請負契約の変更について

災害関連農村生活環境施設復旧事業・福島再生加速化交付金事業 農業集落排水管路工事(飯樋地区) 請負契約の変更について

教育委員会委員の任命につき同意を求めることについて

村長村政報告

(紙面の都合上、一部省略しています)

第6次総合振興計画の中間検討状況について

基本理念であるキャッチフレーズは、「ものは引き算、こころは足し算の村づくり」、サブフレーズは「ちよつと住む時々住む ずっと住む みんないいかも いいたてむら」としました。

これは、第5次総のキャッチフレーズである「まていライフ」の精神を土台とし、ものの豊かさだけではなく、お互い様の優しい気持ちで地域や家族のあり方を大切に、という考えから、「ものは引き算、こころは足し算の村づくり」という基本理念に決定しました。

現在の進捗状況ですが、4つの専門部会で、目指すべき姿、主な重点事業等を検討しています。6月中旬を目途に全世帯に郵送にて、意見を求めることとしています。

新型コロナウイルス感染症対策について

村では、2月27日に新型コロナウイルス感染症対策本部を設置し、13回の本部会議を開催し、感染症対策、経済対策の両面にわたり協議・検討してきました。感染症対策では、学校等の休業や再開、公共施設の一時休業や休止、村民への感染症予防対策チラシの配付、役場窓口のアルコール消毒の徹底、村民一人あたり10枚のマスクの配付などです。今後、フェイスマスクや非接触式体温計などの交付を予定しています。

経済対策としては、企業・事業所などの減収分に對して、固定資産税納付額に應じて最大500万円まで補助金交付を行うための予算化。国による支援は、村民一人あたり10万円の特別定額給付金の交付、持続化交付金、雇用調整助成金、無担保・無保証・無利子の緊急経済対策資金の貸付などです。

行政区長・副区長会議

4月10日に、第1回行政区長・副区長会議を開催しています。令和2年度は、役員の改選年度となり、新たに5人の新任区長に委嘱状を交付しました。会議では、各課の主要事業等の説明を行い、各行政区から要望や質問を受けました。

村民の帰還

6月1日現在の村への帰還者は630世帯、1238人で帰還率は約23.1%となっています。これに、転入者176人といいたてホームの入所者等を合わせ、村内の居住者は747世帯で1459人となっています。

いいたてクリニック

4月より院内処方をスタートし、昨年同様、火曜日と木曜日の週2回午前中の診療を行っています。新型コロナウイルス感染症の影響もあり、利用者は1日あたり15、1人程度となっています。

鳥獣被害対策

4月2日、鳥獣被害対策実施隊編成会議において、村内のハンター21名に委嘱状を交付し、有害鳥獣駆除活動を開始したところです。

学校教育関係

3月29日、飯舘中学校体育館を会場に、4校合同の開校式を、新型コロナウイルス感染拡大の影響により規模を大幅に縮小して開催しました。式後には、4校の校歌を記した歌碑の除幕式を行い、147年余りの歴史を刻んできた学校に感謝の気持ちを表しました。

4月5日には、いいたて希望の里学園の開校式を行いました。開校式では、菅野村議会議長、亀岡文部科学副大臣、鈴木福島県教育長にご祝辞をいただき、校歌を作詞いただいた俳人黛まどかさんには、子ども達と一緒に校歌を披露していただきました。